

平成 30 年度役員会実施報告

事業監査

平成 30 年 5 月 24 日（木曜日）大仙園会議室
出席監事：2 名

理事会

平成 30 年 5 月 28 日（月曜日）大仙園会議室
出席理事：5 名 出席監事：2 名
議題 平成 29 年度各事業報告について
平成 29 年度各事業収支決算書・財産目録について
平成 29 年度社会福祉充実残額について
平成 29 年度事業監査報告について
平成 29 年度末法人純資産の登記額について
大仙園サービス区分の経費案分変更について
入野光保育園の大規模修繕の進捗説明会
定時評議員会の開催日・議題について

評議員会

平成 30 年 6 月 14 日（木曜日）大仙園会議室
出席評議員：6 名 出席理事：3 名 出席監事：1 名
議題 平成 29 年度各事業報告について
平成 29 年度各事業収支決算書・財産目録について
平成 29 年度社会福祉充実残額について
平成 29 年度事業監査報告について
平成 29 年度末法人純資産の登記額について
入野光保育園の大規模修繕の進捗説明会

理事会

平成 30 年 8 月 21 日（火曜日）大仙園会議室
出席理事：5 名 出席監事：2 名
議題 入野光保育園大規模修繕工事の入札結果について

入野光保育園会計の積立金取り崩しについて
西日本豪雨災害の被害説明と復旧計画について
復旧計画の資金計画について
入野財産区との被害補償交渉について

理 事 会

平成 30 年 11 月 19 日（月曜日）大仙園会議室

出席理事：5 名 出席監事：1 名

議題 各事業予算の半期進捗状況について
各事業予算の補正について
入野光保育園の大規模修繕の進捗状況について
入野財産区との災害補償結果について

理 事 会

平成 31 年 3 月 13 日（水曜日）大仙園会議室

出席理事：4 名 出席監事：2 名

議題 平成 30 年度各事業収支予算の補正について
平成 31 年度各事業計画について
平成 31 年度各事業収支予算について
入野光保育園の大規模修繕の追加工事について
就業規則変更（働き方改革関連）について
大仙園の給与規定変更について
平成 31 年度役員会開催計画について
欠員理事の補充者の決定

平成 30 年度 特別養護老人ホーム大仙園 事業報告書

<施設理念>

「笑顔のありがとう をいただける 笑顔のあたりまえ」

<基本方針>

1. 入所者様の生活の質（QOL）から死の質（QOD）まで、尊敬の念を持ち支援するよう努めます。
2. 専門性の高いサービス提供に向け、知識・技術の支援能力の向上を図ります。
3. 入所者様の残存機能に応じ、可能な限り自立した日常生活が送れるよう支援します。
4. 地域との連携強化により、地域住民の期待に答えられる施設の社会化を目指します。
5. 入所者様の高齢化、重症化に備えた医療との連携の充実化を図ります。

<重点目標>

1. 入所者様一人一人がその人らしく快適な生活が送れるよう環境を整える。
2. 入所者様に、個別性の理解を深め心身の状況等に応じた個別ケアに努める。
3. 日常生活における様々な場面で、自らが選択し自由な自己決定ができる入所者様本位の生活を提供する。
4. 職員の教育システムの構築と、個々の役割を遂行できるよう業務システムの構築に努める。

平成 30 年度については利用者の自立性を重視した介護の取り組みを行い、職員研修会などを通じて知識や技術の取得を目指しながら介護の質の向上を図りました。

介護については各部署が連携を図りながら、利用者が安心した生活を提供できるよう支援しました。地域については近郊の事業所などを訪問しながら、地域との連携強化を目標に活動を行いました。

1. 事故・ヒヤリハット報告

ヒヤリハットについて平成 29 年度は 218 件でしたが、平成 30 年度は 177 件となっています。前年対比は従来型 34 件減、ユニット型は 7 件減です。事故については 21 件に対して従来型 3 件減、ユニット型は 6 件増となっています。

ヒヤリハットや事故報告を挙げながら検討を行いながら対策を行っていましたが、平成 30 年度についても主な事故である骨折は 9 件となりました。骨折の原因は転倒によるものであり、今後も更なる見守りなどの強化と職員間の連携に努めながら対応します。

また事故防止検討委員会を年 4 回実施し、介護事故を未然に防ぐために事故報告やヒヤリハットの報告について環境整備に努め、事故防止に係る規定の見直しや職員に周知する活動を積極的に取り組みます。

2. 褥瘡者数

褥瘡発生者数が1~2人/月となっています。今年度は褥瘡に対する注意を一層強化し、褥瘡対策委員会を実施しながら、適切な介護と発生を防止する体制の整備を行います。また褥瘡の発生状態の数値化を継続し管理を継続しながら把握に努め、個々の利用者への対策を早期に行います。

3. 入院者の疾患別状況

入院者について平成29年度は31名でしたが、平成30年度は25件でした。

いずれも入院疾患は肺炎によるものが占めています。

本年度については利用者の体調管理を他部門連携で行い、提携病院である馬場病院の早期受診を促しながら重度化を防ぐ対応を行います。

4. 平成30年度死亡者数

死亡者数について平成29年度が22件でしたが平成30年度は27件であり、いずれも老衰によるものです。平成30年度については7割の方が当園でお亡くなりになられており、また17名の方が看取り介護の同意を得られた利用者になります。

今後は緊急時対応マニュアルに見直しや整備を行うとともに、看取りに対する対応の充実を図ります。また医療的ケア安全委員会を年4回実施し、医療的ケアの推進と安全管理に取り組みます。喀痰吸引に関しては実施する職員が安全かつ適切に実施するために業務体制の整備を行い、喀痰吸引等の業務に係る研修、及び心肺蘇生訓練や緊急時対応訓練などの充実を図ります。

5. 平成30年度入所者状況

特養について平成30年度は、前年と同様に99%を上回る稼働率になりました。

平成29年度については要介護度3が36名、4が48名、5が32名でしたが、平成30年度は要介護度3と5の利用者が減り、4が増えております。前年度に比べて約1割弱の方の介護度が重くなっています。入所者は東広島市の半数を占めますが、続いて竹原市と三原市が多くなっています。

短期入所生活介護事業所について平成30年度は27名の方が利用頂いており、稼働状況31.2%と前年をやや下回っています。また河内町や高屋など近郊の方がご利用頂いております。

<平成 30 年度 事業計画実施状況>

◇ 介護サービス部門計画 従来型
(部門別事業計画)

1. 自立支援を目指すために残存機能を活用し、生活リハビリを行なった上で日常生活の充実を図る。
2. 利用者が事故や怪我などされないように、事故防止の意識を高め、安全安心な日々を過ごしてもらう。
3. 利用者が穏やかに過して頂けるよう、個々のニーズに添ったサービスを提供する。
4. 利用者がより良い生活を送って頂く為に、介護技術や知識の向上を目指す

自立支援を目指すために 3 ヶ月に 1 度のカンファレンスを実施しながら、利用者ごとの支援の検討を行った。その中においてはケアプランに沿ったモニタリングやアセスメントを行ったが、個々の利用者の課題に対して検討が不十分な場合もあった。

したがって今後は利用者自身やご家族の情報や思いなどを知ること努め、要望や需要を把握することに努める。また面談を増やすことにより信頼関係の形成を行いながら、今後のカンファレンスにおいて個々のプランに活かしていきたい。

利用者が事故や怪我などについては、ヒヤリハットカンファレンスを毎週月曜日に行いました。

今後は更に事故に至る経緯を多角的な視点で物事を見るように検討します。

利用者の個々のニーズに沿ったサービス提供について、カンファレンスにおいて生活の中で必要とされていたものや嗜好などの検討を行っている。今後は継続しながら、より良いケアとは何かを職員間で考えていきたい。

介護技術や知識の向上を目指す、毎月開催される職員研修会に参加が不十分だった。今後は積極的に参加を促し、技術や知識の習得に努めたい。

◇ 介護サービス部門計画 ユニット型
(部門別事業計画)

1. その人らしい生活を送ってもらえるように、本人の意向を尊重し個別ケアを実践していく。
2. 報告、連絡、相談を徹底し、職員同士のコミュニケーションを円滑にすることで、いきいきとした働きやすい職場作りに取り組む。
3. 利用者の心身の状態に合わせた支援を行う為に他職種との連携を強化し、それぞれの専門性を活かしたよりよいケアに努める。
4. 感染症を蔓延させない。
5. 安全な環境作りを推進し事故予防に努め、骨折 0 を目指す。

利用者にもその人らしい生活を送ってもらえるように個別対応に努めている。しかしまだ希望に添えられない部分が多く、職員目線で支援していることがある。

利用者の思いに答えられるようにしっかりと傾聴し、信頼を得る関係を構築していけるように支援します。また統一したサービスを提供できるように職員研修会に参加し、新人職員には個人講習を行うなどしながらサービスの質を上げる。

報告、連絡、相談の重要性を職員一人ひとりが意識し、物事を早期に解決できるよう行動した。しかし他職種との情報伝達が遅滞する場合があった。今後は更なる他職種との連携を強化し、新人職員の教育にも尽力します。

また役職者が中心となり、風通しのよい職場環境を作れるように普段からコミュニケーションを図ります。

入居者様の安全面に配慮していますが、転倒され骨折された利用者が居られた。転倒リスクの高い利用者にはより一層の注意を払い、安心して日々を過ごしてもらえるように支援します。また事故発生時には当日に事故報告書を作成し、問題点の洗い出しを行いながら今後の対策や改善策を練るようにします。

◇ 看護部門計画

(部門別事業計画)

1. 利用者並びにご家族の医療ニーズに応じたケアの提供に努め、安定した生活が維持できるよう健康管理に努める。
2. 介護職員が安心、安全な医療的ケアが実践できるよう医療的ケアマネジメント能力の維持をサポートする。
3. 看取り介護において看取り同意から最期の時まで、多職種協働でご本人とご家族が良かったと思えるような関わりを持つ。

食事摂取量や排泄状況を観察し、内服調整などの依頼を行った。また疾患に合わせたアセスメントを行い、随時医師への報告を行った。入院者数は25名と多く、今後も継続して行っていく必要がある。

医療行為の事故について、今年度は0件でした。来年度も継続して研修会を行い、スタッフへ指導や助言に努めます。

看取り同意の日程調整や日々の状態の報告などは、身元保証人に行っている。看取りの利用者についてはカンファレンスを行い、他職種と情報共有する事で個別性を持った看取り介護が行えた。今後も継続します。

◇ 機能訓練部門計画

(部門別事業計画)

1. 生活リハビリを重視して、残された活動能力が維持できるようアプローチする。
2. 理学療法機器（マイクロ高周波・ウォーターマッサージ）を活用し、利用者様の心身のリラックス効果を図る。
3. 他部門との協働の基で、自立支援を目指した訓練内容を実践する。

機能訓練士が一人体制のため介護職員と協同しながら、毎日のラジオ体操と歩行起立訓練や足のローラー、ウォーターマッサージなど、生活の中で行えるリハビリの充実を図っています。

また食事前に口腔ケアを継続して行えています。今後も残存機能が維持できるよう継続しながら、利用者の満足度を高めていきます。

カンファレンスや業務の中で利用者様の ADL に注意し、体調の変化のある利用者については介護と連携して経過観察を行い、訓練内容を検討していく。

◇ 栄養サービス部門計画

(部門別事業計画)

1. 見た目にも楽しめる食事、旬の食材を使用し季節を感じて頂ける食事
2. 食中毒を起こさない様、衛生管理の徹底を図る。
3. 医療・介護と連携し、低栄養状態を防げるよう、体調や嗜好に合った食事の提供を目指す。

地方の郷土料理をメニューに取り入れ、季節感を出せる様に旬の食材を用いて献立に組み込むようにしたが、効果は薄かったことが反省である。

利用者個人に合った食事形態で食べて頂けるよう、れんこんのみ刻み、肉のみ刻み、麺 5cm 等細かいところも対応した。また硬いと言われる食材については、種類を変えて調理法の工夫も行った。

異物混入 0 を目指していたが、今年度は 8 件となっている。

多くは髪の毛の混入だが、他のビニール袋混入、食事形態ミス、虫の混入(生野菜)があり、衛生管理や意識不足から引き起こされるものあった。

食材の管理に関して歯基本的な事から出来ていない事があり、見直しが必要となった。厨房の衛生面では以前に比べ掃除をする習慣が出てきて良い方向に向かっている。

体重増減、血液データ、食事摂取状況から、医務室や介護と協力し改善策を立てた。

主食の量を変更したり、栄養補助食品を提供したり、全体の量の変更を行った。また、ご家族からの要望やご本人様の希望に沿えるよう、厨房と相談し食事の変更を行っている。

◇ 生活相談サービス部門計画

(部門別事業計画)

1. 入所者様ならびにご家族様への相談援助を通して信頼していただけるよう相談技術向上に取り組み、利用者満足度の向上に努力する。
2. 入所および退所が円滑に行われるよう待機者リストの整備・待機者 100 名の確保・月 1 回の入所会議を計画的に取り組む。
3. 地域に役立つ施設を目指し相談窓口および介護相談等で頼って頂けるように取り組む
4. 在宅生活をされておられる要介護者及びご家族の支援のために、居宅介護支援事業所及び医療機関との連携強化に取り組む。

ご家族様への連絡および面談時の対応を通じて、施設サービスへの理解・満足度向上に努めた。今後の面談に際しては利用者の入所後の生活、及び介護現場の実情を踏まえ、円滑なケア提供に繋げていきます。

待機者リストの整備については、ご家族様や担当機関等と連絡を定期的に行った。しかし新規入所申し込みの確保や申し込みに繋がるような活動、行動が不足していたと感じる。

来年度も引き続き待機者リストの整備を行うと共に、新規入所に繋がるような活動、行動を行います。

地域から求められる施設を目指し、短期入所生活介護など地域の他事業所から申し込みを頂けるように活動しました。

現在も入所申し込みを継続して頂いており、今後も居宅介護支援事業所及び医療機関との連携強化しながら、新規の申し込み先の獲得を目指します。

◇ ケアマネジメント部門計画

(部門別事業計画)

1. 利用者様おひとりおひとりに最後まで豊かな生活を送っていただけるよう利用者様第一に考える。
2. 利用者様の生活上の困難や不便を少しでもサポートし、自律生活の可能性を広げる。

ケアプランに沿ったケアの統一が図れてなかった部分もあり、どの様にすれば良いか検討し、多職種連携を図る必要があった。

カンファレンスは3ヶ月毎に実施できていた。しかし決まった用紙に基づいてカンファレンスを進めたが、今後はケアプランに沿ったご本人様の課題を基にカンファレンスを実施していきたい。

利用者の状態変化や受診後等、必要に応じてご家族様に連絡を行う事を相談員や看護師と協力し行えてなかった。今後は連絡を密にしながら、ご家族様とご本人様との信頼関係の構築に更に配慮していく。

◇ 事務部門計画

(部門別事業計画)

1. 事務所内の個々の業務を見直し、事務業務の向上に努める。
2. 施設の顔として、明るい事務所づくりを目指す。
3. 他部門と連携し現場のバックアップを図る。
4. 人材確保と職員研修を検討する。

平成30年度は短期入所の実施指導がありましたが、運用事項説明書の文書や変更届の提出時期等の指導に留まり、大きな指摘事項はありませんでした。事務所内における書類の整理と管理は出来ました。

事務所の対応については好評価をして頂いたこともあり、来園者に対する対応は概ね出来たと思います。現場に対する支援については不十分な面もあり、来期の課題とします。

看護及び介護職員の確保については、配置人員については満たしているものの、人材定着率はまだ低いと感じています。新たな研修カリキュラムは行っておりません。

以上

平成 30 年度現況報告

1 事故, ヒヤリハット報告状況 (平成 30 年度)

◆ヒヤリ (発生場所と内容)

発生場所	件数		計
	従来型	ユニット型	
居室	37	46	83
ホール	23	32	55
浴室	3	0	3
トイレ	10	4	14
廊下	13	1	14
不明	6	2	8
合計	92	85	177

事故内容	件数		計
	従来型	ユニット型	
転倒	32	34	66
横寝/座り/ずり落ち	34	26	60
表皮剥離	13	4	17
内出血	2	9	11
誤薬	1	1	2
異食	1	2	3
その他	9	9	18
合計	92	85	177

◆事故 (発生場所と内容)

発生場所	件数		計
	従来型	ユニット型	
居室	3	4	7
共同生活室	5	6	11
通路	1	1	2
トイレ	1	1	2
不明	1	1	2
合計	11	13	24

事故内容	件数		計
	従来型	ユニット型	
転落	2	0	2
骨折	3	6	9
圧迫骨折	0	0	0
転倒	3	5	8
誤薬	2	1	3
誤嚥	1	1	2
合計	11	13	24

2 褥瘡（床ずれ）者数

月 項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	3	0	2	1	1	2	1	0	1	2	2	2

3 入院者の疾患別状況（平成30年度）

疾患名	対象者数
肺炎	11
心不全	1
消化器疾患	7
骨折	3
脳梗塞	1
悪性新生物	1
検査入院	1
合計	25

4 年度別口腔ケア受診者数

年度	対象者数
平成28年度	18
平成29年度	30
平成30年度	35

5 死因別死亡者数（平成30年度）

死因	人数
老衰	14
肺炎	3
認知症	2
心不全	6
脳梗塞	2
計	27

年度	人数
平成28年度	21
平成29年度	22
平成30年度	27

6 死亡者年齢と死亡場所（平成30年度）

年齢層	死亡場所	
	施設	病院
70歳代	1	
80歳代	3	3
90歳代	13	5
100歳以上	2	
計	19	8

7 年度別看取り死亡者数

年度	人数
平成28年度	21
平成29年度	19
平成30年度	17

8 年度別入所者状況と稼働率

年度	平均入所者数(人)	稼働率(%)
平成28年度	89.1	99.0%
平成29年度	89.6	99.6%
平成30年度	89.4	99.3%

9 年度別平均在園期間

年度	最長期間	平均期間
平成28年度	17年3ヶ月	3年4ヶ月
平成29年度	18年3ヶ月	3年10ヶ月
平成30年度	18年6ヶ月	3年2ヶ月

10 要介護別利用状況（平成30年度）

利用形態 要介護度	従来型		ユニット型		合計
	利用者	退所者	利用者	退所者	
要介護1	0	0	0	0	0
要介護2	3	0	0	0	3
要介護3	11	4	10	3	28
要介護4	26	3	25	6	60
要介護5	8	8	7	6	29
合計	48	15	42	15	120

11 利用者保険者別内訳（平成30年度）

施設区分 保険者	従来型		ユニット型		合計
	利用者	退所者	利用者	退所者	
東広島市	21	8	22	7	58
竹原市	10	4	8	3	25
三原市	9	3	7	5	24
尾道市	2	0	1	0	3
世羅町	1	0	1	0	2
大崎上島	3	0	2	0	5
呉市	1	0	0	0	1
倉吉市	1	0	0	0	1
井原市	0	0	1	0	1
合計	48	15	42	15	120

12 平均年齢構成（平成30年度）

年齢層	従来型	ユニット型	合計
60～69歳	0	2	2
70～79歳	9	5	14
80～89歳	25	22	47
90～99歳	27	25	52
100歳以上	2	3	5
合計	63	57	120

13 認知症自立度（平成31年3月31日現在）

	自立度区分	人数
従来型	自立	0
	I	1
	II	10
	III	29
	IV	4
	V	4
ユニット型	自立	1
	I	1
	II	6
	III	23
	IV	6
	V	5
合計		90

14 年度別短期入所利用者状況と稼働率

年度	利用者数	延べ利用日数	稼働状況(%)
平成28年度	36	1,745	47.8
平成29年度	38	1,519	41.6
平成30年度	27	1,167	31.2

15 短期入所生活介護地区別利用者状況

利用地区	利用者数
河内町	5
高屋町	6
志和町	1
竹原市	7
三原市	7
西条町	1
合計	27

平成 30 年度 ケアハウス大仙 事業報告書

<施設理念>

「笑顔のありがとう をいただける 笑顔のあたりまえ」

<基本方針>

1. 入居者の皆さまに安心した生活を送って頂くよう支援していきます。
2. 入居者が適切な医療・介護サービスを受けられるように、家族やサービス事業者等関係機関と連携し迅速に対応する。
3. 感染症の発生や蔓延防止、事故の発生防止に努め、発生時には早期対応を行う。
4. 行事を通して家族や地域の方との交流を深める。

<重点目標>

1. 入居者様の生活状況の変化により施設外ケアマネ、特養相談員との連携を密にし、速やかに対応する。
2. 御家族・担当ケアマネと最低月 1 回で面談を行っていく。
3. インフルエンザ等の感染症が発生した場合は感染予防のため面会の受付時やご家族、サービス事業者等に連絡し迅速に対応する。
4. 事故が発生した場合は家族・サービス事業者等関係機関と連携し迅速に対応する。

平成 30 年度のケアハウスについては、7 月の豪雨災害による被害を受け、非常に厳しい年度となりました。

年度初めに所者数は 27 名にてスタートしましたが、6 月には 30 名入居となり推移しました。しかし病状の悪化や認知症の進行などにより退去される方が 4 名発生し、稼働率は前年と同様の結果となりました。平成 30 年度末の年齢構成を見ると 80 歳以上の方が 73.3% を占めており、前年度に比べて高齢化が進んでいるのが現状です。

従来は職員研修会に合わせて運営に係る会議を行っていましたが、平成 30 年度から 6 月より新たな会議として運営会議を開催しています。その会議の中では自立生活を送られている入居者に対して、適切なサービスの提供を行えるように検討を重ねています。今後は買い物や受診方法など更なる検討を行いながら、入居者に公平公正なサービス提供を行えるように運営を行います。

行事に関しては各月の行事に合わせて毎月のお誕生日会などを開催しました。また新たに月末の映画上映会などを開催して好評を得ていますが、本年度も継続して入居者の皆さまと一緒に楽しい場を作れるように一層の計画を行います。

また地域の他事業所などと積極的な連携を行い入居希望者情報の収集に努めながら、ケアハウスの稼働率 UP を図ります。

以上

平成 30 年度 ケアハウス現況報告

1. 入退所者数(平成 30 年度)

	入所者数	退所者数
平成 28 年度	5 名	5 名
平成 29 年度	6 名	6 名
平成 30 年度	7 名	4 名

2. 稼働状況 (平成 30 年度/各月初日の人員数)

	平均入居者数	稼働率
平成 28 年度	28.5	95.0
平成 29 年度	28.5	94.9
平成 30 年度	28.5	95.0

3. 年齢構成 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

年齢	平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
60～69 歳	1	0	1	1	0	1	1	0	1
70～79 歳	4	2	6	4	3	7	5	2	7
80～89 歳	6	10	16	5	7	12	5	11	16
90 歳以上	0	4	4	1	6	7	1	5	6
合計	11	16	27	11	16	27	12	18	30

4. 平均年齢 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
男性	80.9	80.1	80.2
女性	85.6	86.6	87.4
全体	84.1	84.0	84.5

5. 要介護度別入居者数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

要介護度	男	女	合計
自立	1	2	3
要支援 1	0	3	3
要支援 2	2	4	6
要介護 1	8	7	15
要介護 2	1	1	2
要介護 3	0	1	1
要介護 4	0	0	0
要介護 5	0	0	0
計	12	18	30

6. 入所者収入別階層区分内訳（平成 31 年 3 月 1 日現在）

	収入金額	入居者数
1	1,500,000 円以下	16
2	1,500,001 円～1,600,000 円	1
3	1,600,001 円～1,700,000 円	2
4	1,700,001 円～1,800,000 円	1
5	1,800,001 円～1,900,000 円	0
6	1,900,001 円～2,000,000 円	4
7	2,000,001 円～2,100,000 円	2
8	2,100,001 円～2,200,000 円	3
9	2,200,001 円～2,300,000 円	1



平成 30 年度 入野光保育園 事業報告書

1. 事業の概要

十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、健康の保持及び情緒の安定を図った。お陰で子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開できた。愛され大切にされる経験が、人への思いやり、強さ、自立心を育んでくれたと感じている。

大きな事故・問題もなく保育ができ、18名の卒園児を元気に送り出せた。

保育目標 「 強く・ 正しく・ 優しく 」
～たくましさと思いやりのある子どもに～

目指す子ども像を

- ・考える子どもに
- ・思いやりのある子どもに
- ・感動する子どもに
- ・思いが表現できる子どもに
- ・根気のある子どもに

として取り組んできた。

留意してきたことは、保育士自身が子どもの思いを共感的に汲み取り、思いやりのある態度で接し、子どもの自己表現を引き出せるようにしたこと。

常に保護者と連携を取り合いながら、目的達成に努めた。

- ・連絡帳 (毎日) ・個人懇談 (4月終り～5月始め)
- ・園だより (毎月) ・保育参観(保護者会) (年4回)
- ・各組の保育実践の振り返り(毎月)

給食は、家庭的な味付けを大事にしながら、乳幼児期という特性を踏まえ、その子どもたちの一生の食生活を形成するという役割を重視して、様々な工夫を凝らした。おやつも手作りを中心とした。

特別な保育事業を実施した。

- ・地域子育て支援拠点事業 (週3日程度実施) ・障害児保育事業
- ・延長保育事業 (開所時間を7:15 ～ 19:00に延長)
- ・緊急一時預かり事業 (希望に応じて)

2. 園児の状況 定員 80名

	年度初め	途中入園	途中退園	年度末
0歳児	2	5	1	6
1・2歳児	24	1	2	23
3歳児	27	0	0	27
4・5歳児	46	0	1	45
計	99	6	4	101

3.職員の状況

園長	1名	パート保育士	3名
主任保育士	1名	事務員	1名
保育士	10名	(嘱託医)	(2名)
調理員・等	4名	パート保育者	2名

4.主要年間実施行事

4月	入園式	健康診断	歯科健診	保護者会	個人懇談
5月	親子遠足	尿検査			
6月	衣替え	運動会	冷水摩擦始め	プール開き	大仙園慰問
7月	七夕会	地震退避訓練	シャボン玉会	保護者会	年長児お泊まり会 火災通報 訓練 不審者対応訓練 消火器等総合点検・消火器使用訓練
8月	夕涼み盆踊り大会				
9月	プール納め	お月見会	敬老会・大仙園慰問		
10月	衣替え	健康診断	園外保育	歯科健診	祖父母の会・餅つき大会
11月	縄跳び大会	老人会との交流	尿検査	レストランごっこ	
12月	ふれあい参観(第2土曜)	お店屋さんごっこ(製作展)			
1月	発表会衣装相談・マラソン大会				
2月	節分豆まき	発表会予行練習	発表会(第4土曜)		
		消火器等点検	地震退避訓練	火災通報訓練	不審者対応訓練
3月	年長児お茶ごっこの集い	年長児お別れ遠足	大仙園慰問	園児お別れ会	卒園式

講師を招いて

毎月	交通安全訓練	英会話教室(月4回)年長・年中児 講師:アングレイニー・ステラ
	火災退避訓練	お茶ごっこ(月2回)年長児 講師:盛本美幸・平野喜久恵・平賀幸子
	身体測定	囲碁ゲーム(年6回)年長児 講師:堀江誠及
	お誕生会	リズム運動遊び(年4回) 講師:松本雅子・木原涼次

5.職員研修の状況

園内職員会議 毎月1回

園内人権保育学習 年5回

東広島市民間保育施設長会 年6回

こども未来部 保育課との連携を図り、保育運営等の充実に努めた。

市保育連盟との連携を図り、保育の質の向上に努めた。

市・保育連盟 総会・講演会

全体研修会

調理員研修

県・保育連盟 保育事業研修大会 (2日間)

所長研修 (2日間)

夏季保育研修 (2日間)

市内・調理担当職員研修

県・特定給食研修会

市保育課・サポート事業研修

幼保・小接続研修

アレルギー講演会

キャリアアップ研修：4人・・・17種別